

船舶事故調査報告書

平成30年5月23日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成29年12月2日 10時35分ごろ
発生場所	広島県広島市 ^{にの} 似島西方沖 広島港 ^{やじた} 似島家下防波堤北灯台から真方位262° 1.5海里付近 (概位 北緯34° 18.7′ 東経132° 24.1′)
事故の概要	プレジャーボート ^{おおとき} 大時は、西進中、干出浜に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成30年1月4日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート 大時、10トン HS2-3701（漁船登録番号）、株式会社大時 第270-42923号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	舵板、プロペラ翼等に破損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北北東、風力 1、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の初期、潮高 約260cm（広島）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、知人（以下「同乗者」という。） 1人を乗せ、約10ノットの対地速力で広島市大カクマ島南岸沖を手 動操舵により西進中、大カクマ島南岸の干出浜（岩）（以下「本件干 出浜」という。）に乗り揚げた。 本船の喫水は、船首約0.5m、船尾約1.2mであった。 船長は、本事故時、GPSプロッターを作動させていたが、主に目 視に頼って航行していた。 船長は、大カクマ島南岸沖をこれまでに10回以上航行した経験が あり、本件干出浜の存在を知っていた。
分析	本船は、大カクマ島南岸沖を西進中、船長が、目視に頼って航行 し、GPSプロッターを使用して船位の確認を行っていなかったこと から、本件干出浜に向かう状態で航行していることに気付かず、本件 干出浜に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、大カクマ島南岸沖を西進中、船長が、目視に頼 って航行し、GPSプロッターを使用して船位の確認を行っていなか ったため、本件干出浜に向かう状態で航行していることに気付かず、 本件干出浜に乗り揚げたものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え られる。 ・航行した経験がある海域であっても、GPSプロッターを使用し

	<p>て船位を確認すること。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 事前に海図等によって航行海域の水路調査を行い、航路計画を作成するとともに、航路計画には避険線を記入すること。
--	---